

1. 調査報告概要表

作成日 平成 19年 9月10日

【評価実施概要】

事業所番号	1071000317
法人名	有限会社 ケア・オオカワラ
事業所名	グループホーム オリーブ
所在地	群馬県富岡市南後箇 71番地1 (電話) 0274-70-2180

評価機関名	サービス評価センター はあとらんど
所在地	群馬県前橋市大友町 2-29-5 コミューン100 1-B
訪問調査日	平成 19年 8月 21日

【情報提供票より】(年 月 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・ 平成 15年 4月 1日
ユニット数	1ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	10 人 常勤専任5人,常勤兼務2人,非常勤3人,常勤換算8.0人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り 1階建ての 階 ~ 1階部分
------	-------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	(日額) 1,300 円	その他の経費(月額)	光熱費(一日) 200円
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 79.88 歳	最低	67 歳	最高	89 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	公立富岡総合病院 公立七日市病院 西毛病院 おのざわ歯科医院
---------	--------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

日常的に散歩を実施し、地域の人に積極的に話しかけることにより、お花を頂いたり立ち寄りしてもらうことや、ホームの防災訓練や行事(納涼祭等)にも地域の人に参加して頂く等、地域の人との交流と共にホームの理解を深める機会が図られている。1回/月定期的にスーパーへ利用者全員でショッピング(買物ツアー)に出かけ、個別に好きな物(衣類・小物・お菓子等)を自由に購入出来る。又、2回/年ボランティアを募り旅行に出かける等、社会性・自立性への支援が行われている。ホーム周辺の自然環境を生かし、庭には芝生を植え、玄関は施錠しないことを徹底している事から、利用者が安心して伸び伸びとした生活が送れるようなケアを目指している姿勢が伺える。これらは評価に値するものであり、今後も継続されることを期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理念の具体化及び運営理念の共有・明示⇒運営理念がケアサービスを提供する上で、大切であることを日常的に職員に話し、共有化できることを期待したい。又、理念の浸透を図るために、判り易い表記や掲示の工夫を期待したい。(前回の評価結果) ⇒利用者が地域の一員として、その人らしく暮らせるようホームの内外での「助け合いの精神」を理念として掲げ、ホール等に掲示し申し送り時や職員会議等で話し合い、実現に向けての取り組みが行われている。 <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p>
	<p>全職員が自己評価の意義を理解しており、評価項目による具体的なサービスについて職員会議等で話し合い、改善点等について確認・業務の見直し等、改善策への取り組みが行われている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は定期的に開催されており、サービスの実施や取り組み状況等の報告を行っている。会議開催時には、全家族に案内を通知し参加できる人に出席していただいているが、ホームの行事や状況報告等の内容説明が主な現状である。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の相談・苦情等の対応窓口として介護支援専門員を配置しており、契約書等に明示し説明を行っている。又、家族等の訪問時には、利用者の日常の様子を伝え、意見・苦情等が言い易いような雰囲気づくりに心掛けている。今迄に苦情等は特にないが、出された事柄については検討し、運営に反映させる。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入しており、地域の行事に参加したり、2回/年実施の町内清掃等、地域活動にも参加している。又、毎日の散歩時に花を頂いたり、話をしたり等でホームにも来て頂き、日常的に地域との連携が図られている。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「なかよく助け合い…」等々を理念として掲げ、地域の人と共に利用者が、地域の中でその人らしく暮らし続けられるようにと、ホーム独自の理念が掲げられている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホール等に掲示しており、1回／月開催の職員会議で話し合い、確認を行っている。又、理念が実現できるよう職員間で共有・実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、地域の行事に参加したり、2回／年の町内清掃等、地域活動にも参加している。又、毎日の散歩時に積極的に話しかけたり、お花を頂く等、日常的に地域住民との交流が図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解しており、1回／月開催の職員会議で評価について話し合いを行っている。又、評価結果についての改善点等は、業務の見直しを話し合う等、改善策への取り組みが行われている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、評価結果やサービスの実施報告を行い、改善等の取り組み状況について話し合い、委員の意見を取り入れサービスの質の向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が1回/月開催する「地域ケア会議」には、職員が交替で参加し、意見交換を行う等でサービスの質の向上に取り組んでいる。しかし、運営推進会議には市の意向により、出席して頂けない状況である。	○	「地域ケア会議」への参加により、市との連携は図られてはいるが、開催の頻度や内容が乏しくなりつつある現状との事。地域密着型サービスのあり方として、今後は益々市との連携が求められる事から、「運営推進会議」の委員メンバーに市職員が位置づけられており、出席して頂けるよう働きかける事を期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時等に利用者の日常の様子を報告したり、行事での写真を見て頂いたりしている。又、健康状態や問題等が発生した際は電話連絡を行っているが、定期的な報告「ホーム便り」等の発行は行われていない。	○	家族の面会時等では、利用者の様子の報告はなされているが、全家族へ向けての定期的な状況報告がなされていない為、面会に来られない家族への安心感等を含め、個人情報保護に配慮の上、定期的な「ホーム便り」等の発行を期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族・利用者の意見・苦情等の窓口として、介護支援専門員(管理者)が担当しており、契約時に説明を行っている。又、面会時には家族から意見・要望等を聞き、出された事柄については会議等で確認し運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職等については最小限に抑えるよう努めており、体調不良等で長期休暇を要した職員に再復帰してもらう等の経緯もあり、馴染みの関係性を維持し、利用者のダメージへの配慮が行われている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規職員の採用時及び定期的に(1回/年)講師を招いての内部研修を開催している。その他、グループホーム連絡協議会主催の事例発表等、外部研修にも積極的に参加出来るよう心がけている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム連絡協議会に入会しており、職員の交換研修や相互訪問等の活動を通して交流を図り、サービスの質向上への取り組みが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所希望時には訪問し、家族との話し合いや本人と面談を行い、ホームへ見学に来て頂く等、相互で相談の上、徐々に安心感が持てるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者と生活を共に過ごすという観点から、一つの家族として、共に喜び、出来た事に感謝し、昔の人の「知恵」として、調理・菜園等を通して教えて頂き、日常的に支え合う等の関係づくりに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員会議等で利用者一人ひとりの生活暦を確認し、聞き取りで意向の把握を行う等、アセスメント表(包括的支援プログラム)の活用により、利用者本位に向けての検討を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者各自の状態や生活特性等に基づき、1回/月職員会議で課題等の確認を行い、家族からは面会時に要望等を聞き、話し合いの上介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間は定めて(明示して)おらず、状態の変化や介護度の変更時等に見直し、状態に変化のない場合は、6ヶ月毎の見直しを行っている。	○	定期的なモニタリングを行い、利用者の現状に即した介護計画であるか確認の上、計画に基づいた支援を行う事が重要であることから、状態の変化に応じた随時及び3ヶ月毎の定期的な見直しを行い、適正な介護計画の作成を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診等を含め本人や家族の要望等に応じている。又、看護師を配置し、「医療連携体制加算」及び「指定介護予防認知症対応型共同生活介護」の指定を受ける等、多機能性を生かした支援体制が整えられている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者全員について協力医療機関の医師による1回／月の往診が行われている。又、入居以前より受診していた精神科・眼科等については、希望する医療機関へ定期的に受診出来るよう職員による支援が図られている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化・終末期等について方針は定めており、職員で共有しているが未だ対象者がいない為、かかりつけ医や家族等との具体的な話し合いは行われていない。	○	重度化に向けて定められている終末期・ターミナルケア(看取り)についての方針を基に、職員間の勉強会やかかりつけ医との連携を図り、家族等と話し合いによる意思確認を行い、同意書の作成等についての検討を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員はプライバシー保護や個人情報保護法を理解しており、利用者の人格や誇りに配慮した行動や言葉かけ等の対応を心がけている。又、職員の採用時及び職員会議等でプライバシーの確保について確認を行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりが、その人らしく生活を送れるよう意見を汲み取り、クラブ活動(カラオケ・コーラス)等でも無理強いはせず、各自のペースを保ちながら過ごせるような支援が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者各自の好みを聞き献立に反映したり、利用者の力量を考慮し、職員と一緒に調理・後片付け等を行っている。又、食事は職員が各テーブルに同席し、会話を楽しみながらの支援が行われていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には2回/週(火・金)13:00~15:00の時間帯に入浴を実施している。入浴の時間を活用し、入浴可能の際には毎回の体重測定が行われ、チェック表に記載されている。	○	曜日や時間帯を設定した入浴支援となっている現状だが、今後は利用者一人ひとりの希望に添って、くつろいだ入浴が出来るよう検討中との事。今後の個別的な入浴支援を期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や状況に応じて食事づくり・清掃・洗濯物たたみ等、出来そうな事は楽しみながら日常的に行えるよう支援している。又、敷地内の畑を活用し、利用者と共に農園作業(なす・きゅうり・トマト・かぼちゃ等)を行い、食卓に上がり、楽しみごととして話題となっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候によるが、ほぼ毎日散歩に出かけている。又、定期的(1回/月)全員でスーパーへショッピングに出かけ、自由に買い物ができるよう支援し、洋服・お菓子・週刊誌等個別に購入する等の外出支援が行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることへの弊害を理解しており、利用者一人ひとりを把握し、見守りを強化する等で夜間は施錠しているが鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の人々にも参加していただき、2回/年(春・秋)避難訓練を実施している。秋の避難訓練は消防署と共に実施し、評価・反省等が行われている。又、マニュアル及び実施記録等があり、近隣の協力体制も図られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士により栄養バランス等を考慮した献立を作成している。食事チェック表の活用により、個々の栄養バランスを把握しており、嗜好品や食事形態等の配慮の上、健康面への支援が行われている。水分については、提供時に必ず飲んでいただく様に心がけているが、チェック表の記載は無い。	○	水分については、必ず飲んでいただく様に働きかけているが記載は無いとの事。摂取量の共通確認及び記録の重要性の観点から、水分摂取量についても、チェック表等の記載を行う事がより望ましい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール・廊下等の共用部分の設備や物品は、季節感のある装飾等の活用により家庭的な雰囲気が感じられる。又、テレビの音量・職員の声等についても利用者に配慮し、居心地よく過ごせるような工夫がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具等は、利用者や家族と相談を行い、使い慣れた生活用品を持参していただくようにしている。居室には馴染みの箆笥・仏壇・賞状等が持ち込まれ、各自が安心して過ごせるような配慮がなされていた。		